

第3回地域活性化に資する灯台活用に関する有識者懇談会

令和元年6月13日

【主任海上交通企画官】 定刻になりましたので、ただいまから第3回「地域活性化に資する灯台活用に関する有識者懇談会」を開催させていただきます。

委員等の皆様方には、大変お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

事務局を務めさせていただいております海上保安庁交通部企画課主任海上交通企画官の長谷川でございます。よろしくお願いたします。

携帯電話等をお持ちの方は、マナーモードへの切り替えをお願いいたします。

委員のご紹介につきましては、時間の都合もございますので、配席図から変更のある方のみをご紹介することといたしまして、その他の方々につきましてはお手元の配席図をもってかえさせていただきます。

志摩市観光商工課長の鈴木委員の代理でご出席いただいております、志摩市観光商工課観光振興係長の岩崎様です。

【岩崎観光振興係長】 よろしくお願いたします。

【主任海上交通企画官】 ありがとうございます。なお、海上保安庁の出席者は、お手元の配席図をもってかえさせていただきます。

次にお手元に配布しております資料のご確認をお願いいたします。配布資料につきましては次第の下のところに一覧として載せておりますものに加えまして、銚子市の笹本委員からいただいております、灯台ワールドサミットイン銚子開催概要というものも含めて、ご確認ください。資料に不備がございましたら事務局までお申し付けください。

それでは、議事に移りたいと思います。ここからの進行は藤岡座長をお願いしたいと存じます。藤岡座長、よろしくお願いたします。

【藤岡座長】 藤岡でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは議事を進めてまいりますので「議事(1) アンケート結果(速報)」について、事務局から「資料1」のご説明をお願いいたします。

【原海上交通企画官】 海上保安庁交通部企画課海上交通企画室の原でございます。

資料1 アンケート結果(速報)について、ご説明いたします。まず、資料1枚

目の下段をご覧ください。4月に開催した第2回懇談会でご報告させていただきましたが、灯台に訪れたきっかけ等について、資料右下の調査票を使用してアンケート調査を実施しました。

実施箇所は、参観事業休止中の尻屋埼灯台を除いた全国15箇所の参観灯台で、アンケートの実施に当たっては、各参観灯台の支所、灯台を所管する保安部に協力いただいております。

実施期間は、4月下旬から5月下旬の約1ヶ月間のうち、ご協力いただいた各支所や保安部の業務に支障の無い任意の期間としております。

なお、集計作業の都合上、灯台1箇所あたり、アンケートは200名程度を上限といたしました。

続いて、資料1枚目の裏面をご覧ください。アンケートの結果につきましては、上段のようにアンケート実施箇所全体をとりまとめたものと、下段のように個別箇所ごとにとりまとめたものの2種類に分けて整理しております。以後、個別の質問事項ごとにご説明いたします。

まず、質問事項「お住まいの地域をご選択ください。」につきまして、本質問では灯台を訪れた方が、灯台が所在する県内に居住しているのか、それとも県外に居住しているのかを選択して回答していただきました。

回答総数は1,988件で、県内と回答した方が498件、県外と回答した方が1,488件、無回答が2件となっており、回答いただいた方の75%が、県外から参観灯台を訪れたとの結果になりました。

また、本ページ下段の個別の灯台ごとの回答状況を見ると、犬吠埼灯台、野島埼灯台、観音埼灯台、安乗埼灯台、大王埼灯台、残波岬灯台については、県内から訪れたと回答した方が30%以上となっており、他の参観灯台と比べて県内から訪れていると回答した者の割合が高くなっています。

続いて、資料2枚目表面の上段をご覧ください。質問事項「どなたと来られましたか。」につきまして、本質問では回答者が、誰と灯台を訪れたかを、①から⑥の選択肢から選んで回答していただきました。

回答総数は1,988件で、回答結果につきましては、「①一人で訪れたが196件」、「②家族と訪れたが1,219件」、「③友人と訪れたが364件」、「④恋人と訪れたが145件」、「⑤ツアーで訪れたが20件」、「⑥その他が16件」、「無回答が28件」となっております。

なお、その他の回答につきましては、主に「会社」ですとか「社員旅行」ですとかそういった回答の方が多かったです。全体的な回答は家族や友人など、複数人で参観灯台を訪れている方が多い傾向となりました。

また、下段の個別の灯台ごとの結果を見ると、多くの参観灯台では「家族」と訪れたと回答した方の割合が50%以上となっておりますが、大王埼灯台及び出雲日

御碕灯台では、それぞれ約 30%、約 40%となっており、他の参観灯台と比べて家族以外の方と訪れたと回答した者の割合が高い傾向となっています。

続いてページをめくって、資料 2 枚目裏面の上段をご覧ください。質問事項「灯台を訪れたきっかけを教えてください。」につきまして、本質問では、灯台を訪れたきっかけを選択肢①～⑧の中から複数回答で選択していただいております。

回答結果につきましては、「①来たかった・家族の希望が 1,034 件」、「②TV・ラジオ・雑誌・インターネット等の紹介が 148 件」、「③知人・友人の紹介が 141 件」、「④観光案内所・パンフレットでの紹介が 187 件」、「⑤ツアー参加・旅行業者の紹介が 29 件」、「⑥なんとなく（ドライブ、周辺の観光のついで等）が 486 件」、「⑦インスタグラム等、SNS での紹介が 42 件」、「⑧その他が 107 件」、「無回答が 9 件」となり、本人や家族の希望で訪れたと回答した方やドライブや周辺観光のついでに訪れたと回答した者が多い結果となりました。また、ツアーや旅行会社の紹介で訪れたと回答した方も若干存在しました。

なお、その他の回答について、一部を紹介させていただきますと、「日本の灯台巡り、灯台スタンプラリー」など灯台に来ることが目的と思われるもの、「キャンプ、東北一周ドライブ」など何かのついでに灯台を訪れたと思われるもの。「ツーデーウォーク 29 キロコースだったから」のようにイベントで灯台が活用されていたことが理由で灯台を訪れたと思われるものなどがございました。

続いて、下段の個別の灯台ごとの結果を見ると、大王埼灯台、出雲日御碕灯台は、他の参観灯台と比べて「⑤ツアー参加・旅行業者の紹介」がきっかけで訪れたと回答した者が多く、大王埼灯台では 8 名、出雲日御碕灯台では 7 名の方が「⑤ツアー参加・旅行業者の紹介」がきっかけで灯台を訪れたと回答しています。

また、角島灯台は、他の参観灯台と比べて「⑦インスタグラム等、SNS での紹介」がきっかけで訪れたと回答した者が多く、16 名が「⑦インスタグラム等、SNS での紹介」がきっかけで訪れたと回答しています。

これらの結果について、出雲日御碕灯台がルートに組み込まれているツアーが存在することや、角島に向かう角島大橋が写真撮影スポット、所謂インスタ映えのスポットとして有名であることが、インターネットで紹介されておりましたので、アンケートの結果はこういった要因によるものの可能性があるのではと考えております。

続いてページをめくって、資料 3 枚目表面の上段をご覧ください。

質問事項「灯台を訪れた感想をお聞かせ下さい。」につきまして、本質問では灯台を訪れた感想を、①から⑤の選択肢から選んで回答していただきました。

回答総数は 1,988 件で、回答結果につきましては、「①非常に満足が 1,065 件」、「②満足が 734 件」、「③まあまあが 145 件」、「④不満が 4 件」、「⑤非常に不満

が4件]、「無回答が36件」となり、アンケートに回答していただいた方の多くから、好印象との回答をいただきました。

なお、ページ下段に記載しておりますが、「④不満」及び「⑤非常に不満」と回答した者の自由意見として、「反対側にもてすりを付けて欲しいです」、「灯台に入る人数を決めて欲しい」、「200円は高いかなと思った。インスタ映えの何かあるならいいと思う」といった意見がありました。

続いてページをめくって、資料3枚目裏面の上段をご覧ください。

質問事項「灯台の魅力と感じた点をお聞かせ下さい。」につきまして、本質問では、灯台を訪れて魅力と感じた点について、選択肢①～⑤の中から複数回答で選択していただいております。

回答結果につきましては、「①灯台の立地場所の風景が802件」、「②灯台からの眺望が925件」、「③灯台の歴史が294件」、「④灯台そのものや使用している機器（レンズ等）が171件」、「⑤その他が68件」、「無回答が510件」となり、「①灯台の立地場所の風景」及び「②灯台からの眺望」を魅力要素と回答した方が多い結果となりました。

なお、その他の回答について、一部を紹介させていただきますと、「海と海岸がきれい」、「大型客船が見られた」、「建物、灯台の作りがすばらしい」、「形が四角形でめずらしい」といった選択肢と重複するような意見のほか、「灯台のスリル」、「登れる灯台は少ないので貴重な体験ができた」、「階段が楽しかった」、「都井岬の野生の馬で天然記念物となっている「御崎馬（みさきうま）」など、灯台を訪れたことで体験できるようなものを回答された方もいました。

続いて、下段の個別の灯台ごとの結果を見ると、特徴的なものとして、野島埼灯台は、他の参観灯台と比べて「④灯台そのものや使用している機器」を魅力要素として回答した者が多い。大王埼灯台では、他の参観灯台と比べて「③灯台の歴史」を魅力要素として回答した者が多いという結果になっております。

最後に自由意見をご紹介させていただきます。ページをめくって、資料4枚目をご覧ください。

4枚目の①から③のとおり、一部抜粋して掲載しております。自由意見①につきましては「灯台の歴史、地形のことを知れてよかった」、「太平洋からの眺め、地球は丸いと実感できました。ありがとうございます」、「安乗埼灯台は眺望は大変良い。県外の人達にたくさん見ていただきたい」など、灯台に来ていただいて色々な魅力的要素を発見していただいたというような自由意見。

下の段②になりますけれども、「地上での写真撮影ポイントがあると良い」、「灯台の灯りの説明（何ワットとか、どのくらい先から見るとか）を階段を登る時にアナウンスすると良いのでは」といった、見せ方、こういうことがあったらよいのでは、というご意見。

裏面③になりますが、「階段内側にも手すりがあると安心です」、「昇降ルートが狭すぎて滞留する。子供の年齢制限を設けるべき」、「バンジージャンプをしてみたい」など様々なお意見がありますので、ご確認いただけると幸いです。

以上、資料1の説明となります。

【藤岡座長】 どうもありがとうございました。今、事務局から説明していただきましたことにつきまして、委員の方々からご意見、ご質問いかがでしょうか。

【不動委員】 今のアンケート結果を見て、灯台は、眺望とか灯台について知識を持っていない方にも、ふらりと行って楽しめる場所なのかなと思いました。

それに加えて、灯台というのは大体そういう立地の素晴らしい所に建っていて、感動を与えられるものだという事だと思えるのですけれども、歴史の読み物があるといいと思いますとか、登りの階段の所で何かアナウンス、説明があるといいのではないかという意見があるので、さらに灯台の歴史ですとか、灯台は何キロくらい光が届くのですよとか、そういう説明を求めているということが分かりました。

実際に灯台にはそういう説明もありますし、今はインターネットで調べればすぐ分かることではあるのですが、幅広い年齢層の人が来ていらっしゃるので、どなたでもそこに来てすぐ得られる情報というのがあると、もっと楽しみやすいのかなと感じました。

【藤岡座長】 ありがとうございます。ほかにいかがですか。例えば寺崎さん、観光という観点から見たときに、このアンケート結果から何か見えてくることはあるでしょうか。

【寺崎委員】 まだ読み解く前に分からないことがあったので、そこを見ていたのですけれども、1、2 質問させていただいてから、観光の観点からのコメントをさせて下さい。

すごく技術的で細かいことなのですが、10 ページの選択肢、グラフの形を見ると、複数回答で選んでいるという形になっているのですが、質問表はどれか1つと書いてあります。これは結果としていくつもマルがついていたからこのような形にされたのか、というのがまず1点。

もう1つ、結果として複数回答になっていたということを前提にして、11 ページと7 ページのグラフの凹凸を見ると、ほとんど同じ形をしているということです。つまり、その灯台に興味があると、このようなマルチアンサーの場合は、沢山マルを付ける傾向にあるので、マルチトータルを見ると興味の出方が分

かるのですが、そういう見方かなと思ったら、棒の高さが同じなので、多分灯台ごとに回収票の数がずいぶん違ったのかなと思うのですが、そのような見方でよいのかというのが2点目。

2つ質問させていただいて、コメントさせていただければと思います。

【藤岡座長】 事務局からご回答お願いします。

【主任海上交通企画官】 ご指摘のとおりでございます。まず、アンケートの回収状況ですけれども、先ほどの説明では200を上限という形でさせていただいたのですが、実は一番少ない所では17件、一番多い所では298件と、かなり差とバラつきがありまして、そのバラつきの差というのが、先ほど寺崎委員のご指摘のとおりこの凸凹票に出ております。

また、本来こちらとしては、1つマルをつけてほしいところではあったのですが、2つ3つつけられる方もいらっしゃったので、結果として、この様な形になってしまいました。

【寺崎委員】 ありがとうございます。普段私たちが見るときの目線として、このようなアンケートでは満足度を気にします。

こうやって見ると「非常に満足」、「満足」を合わせると90を超えているので、「すごいじゃないか」というように見えるのですが、温泉地だろうと遊園地だろうと、観光地の満足度アンケートは大体こんなものです。

つまり、「非常に満足」でなければ「満足でない」と見るのが一般的な見方になっています。「非常に満足」が「満足」より少ない場合には、何らかの課題があると考えるようにしています。

そのうえで、その下の灯台ごとの青の棒の高さを見ると、ずいぶん灯台によって違うんだな、ここまで違うのかというところが面白くて、では、その高いところと低いところの差は何なのだろうと思って、ほかの回答を今見ていたところ

です。ここの差に、灯台の本当の面白さ、一人の旅人として心打たれるところ、魅力というのがあるのだろうなと思います。

今こうやって見ていまして、一番高いのが大王埼で、ほかと比べて何に心が打たれているのかと見たら、データの上では歴史がすごい所だということが分かります。

やはり歴史を感じるということに、大きな感動の源泉があるのかなと思ったところです。灯台の素人からすると、歴史的に見て何らかの物語を感じるというのが、すごく心動かされるのだろうという感想を持ちました。

【藤岡座長】 実際にそれを見ておられる不動さんから見ていかがでしょうか。
「非常に満足」の元はなんだろうかという……

【不動委員】 大王埼が歴史的というのはちょっと意外な感じはします。
大王に行くまでの港町の風情ですとか立地はすごくいいですけども、今建っている灯台が歴史的かという、そうではないからです。

もし歴史的と言うのであれば、犬吠とか角島の方が、高い満足度を引き出しそうなのではないかと、この回答をされた皆さんがどこに歴史を感じたのだろうと、今考えているところです。どうですか、藤岡先生。

【藤岡座長】 大王埼とか塩屋埼は、上から見た雄大な風景がこの高評価につながっているのではないかと印象を持ちます。

大橋さん、これに関して何かご意見ございますでしょうか。

【大橋委員】 意見ではないのですが、3 ページの下のアンケート結果で、入道埼と潮岬ですが、ここが県内の方がアンケート上は 1 人も訪れてなく、県外の方のみです。

角島も県内の方はいらっしゃるんですけど、ほとんどが県外の方で、11 ページの「魅力と感じた点をお聞かせ下さい」というところを見ると、角島はかなり回答件数が多い。

入道埼と潮岬、こちらは回答件数が少なかったというところになるのですか。

【主任海上交通企画官】 おっしゃるとおりです。回答が少なかったというものもあるのですが、日にちが限られた期間でしかやれなかったということもあって、県外の方しかいらっしゃらなかったとか、そのような状況になってしまったのかなと考えております。

【大橋委員】 例えば潮岬ですと、熊野古道に近い所になりますから、ほかの観光地との兼ね合い、観光ツアーの中に含まれているとか、そういったこともあるのかなと思っていました。

そうすると、人を呼び込むための方策の 1 つとしては、逆にこの県外の方のみがいらしている所というのも参考になるのではないのかなと思いました。

【藤岡座長】 ありがとうございます。先ほど一番少ない所では 17 件とおっしゃいましたが、家族で、複数で来ているということは、本当はもっと人数的には

多いという意味でしょうか。

【主任海上交通企画官】 実際はもっといらっしやっただと思います。

ただ、アンケートを記入して回収箱に入れて下さった方が17名だったということです、実際にどれだけの方がいらっしやっただというのは、把握できておりません。

【藤岡座長】 いずれにしても複数名で来ているというのはいいことだと思います。

しかも観光でふらりと寄ったというのを含め、そういった観光でもいいから立ち寄る先になっているというのはいいことだと思いますけど、それを更に増やすということを考えるか、或いは1人で来ている方が少ないとすれば、そういう方をもっと掘り起こす必要があるとか、色々なことが考えられますが、その辺はいかがでしょうか。

寺崎さん、観光という観点からいかがですか。

【寺崎委員】 僕らがいつも「誰と来ているか」というのを見るときに、例えば家族であっても、結婚したてのカップルみたいな時と、子供が幼稚園の時と、小学生の子供がいる家庭と、中学生の子供がいる家庭、高校生の子供がいる家庭、それぞれ行動の仕方が違います。

何が一番違うかというのと、旅行する日が違うのです。学校に行っている子供がいる家庭では平日動けないので、ほぼほぼ週末の旅行になります。

あと、友達同士というのも、例えば若いサラリーマンとOLの友達同士のようなカップル、ここには恋人という括りがありますが、彼らもやはり土日しか動けません。

一方で、40代後半から50代入ったくらいの女性の友達というのは、子供の手が離れて、友人同士で動くようになり、平日に旅行するマーケットとしては大きなボリューム層になります。

多分このアンケートには色々な制約があり、平日に票を取ったり、土日に票を取ったり、灯台ごとに多少の特性が違ったりだとかあったのですが、同行者などを細かく見ていくことによって実像が見えてくるのだと思います。

その上で、一緒くたにターゲットとして一人旅なのか家族なのか、ということよりも、もう少し丁寧に見ていく必要があるのではないのでしょうか。

灯台に入る人数を制限してくれという意見がある所は、週末をそれ以上増やしても、人が多いことが逆に苦情をもたらす可能性があります、平日はもう少し増やしてもよいかもしれません。

今のバス旅ツアーと中高年の女性達の親和性はすごく強くて、そこをターゲットにすれば平日動いてくれます。

だから、週末混んでいる所は家族をこれ以上増やしてもしょうがないので、だったら平日のおばさん達のバス旅をターゲットにして、近くの海鮮市場などを巡るようなものにしてみようという戦略が出てきます。

ですから、ここから一概に灯台に行く人をどう増やしていこうと考えるのはなかなか難しく、立地だとか曜日だとかターゲットのマーケットだとか、周辺にどういったものがあり使えるかということによっても違ってくるので、一つ一つ丁寧に見ていく必要があるのかなというのが、今の時点での感想です。

【藤岡座長】 ありがとうございます。

このアンケートには日付は入っていますか。

【主任海上交通企画官】 日付は入っておりません。来訪された方に御協力いただけますかとお声がけして、それに応じていただいた方にアンケート票を箱に入れていただき、ある程度の時期に回収したというところです。

大体ゴールデンウィークをターゲットにしておりましてけれども、その前後も含め平日も合わせて入っているものと思っております。

【藤岡座長】 いずれにしても一歩前進であることには間違いないので、今の寺崎さんのご指摘を元にもう少し丁寧に様子を見る必要があるということは大事なことだと思います。

なんとかその方策を考える必要があるのだと思います。

ほかにご意見、例えば地方自治体の方はいかがでしょうか。

【笹本委員】 犬吠埼灯台は、ゴールデンウィーク期間中のアンケートということになりますと、非常にお客さんが多かったと伺っております。

海上保安部さんが鯉のぼりを掲揚しているイベントなどもありまして、大変混雑していたのだらうなと思います。

そういうときにアンケートを回収していますと、アンケートの自由意見に書いてあるように、「何人の方登ってください」というような入場制限のご案内のアナウンスをしたと思うので、アンケート結果で「希望」が多く寄せられている犬吠埼灯台は、ご満足いただけていないのかなという印象を持っております。

私は犬吠埼灯台のことしか申し上げられませんが、観光で活用するには、入ったときのおもてなしとして、もう少し何か出来ることを検討していかねばならないし、海上保安部さんとよく協議をしていく必要があるのかなと、

このアンケートを見て感じたところがございます。

【藤岡座長】 志摩市さん、いかがでしょう。

【岩崎観光振興係長】 先ほど、大王埼灯台が歴史的だというお話があって、私もちょっとこの理由について考えていました。

確かに不動さんのおっしゃるとおり、灯台としての歴史というところでは、他にもっと歴史のある灯台がある中で、大王埼灯台の割合が高かったのはなぜだろうと。

大王埼周辺は石工の町。職人が昔から沢山いた所で、石垣であったり石段であったり、そういったものが非常に沢山ある町です。

なので、もし、この灯台を見ていただいた方がそういったところも町歩きされてとか、そういった観点で歴史的な部分を感じてくださっているのであれば、やはり灯台だけの魅力ということではなくて、周辺の魅力、そういったところも灯台活用に生かしていく必要があるのかなと感じました。

【藤岡座長】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。このアンケート結果につきまして。

よろしいですね。色々貴重なご意見いただきまして、どうもありがとうございます。

それでは引き続きまして「議事(2) 灯台拡大の活用に向けた中間とりまとめ」に移りたいと思います。「資料2」及び「資料3」について、事務局からご説明をお願いいたします。

【主任海上交通企画官】 資料2の灯台活用の拡大に向けた中間とりまとめ案についてご説明申し上げます。

本中間とりまとめでございますが、基本的には前2回の懇談会における議論を文章化したもので、事前に皆様にお送りしていたものから修正等はございません。

また、資料3としまして「中間とりまとめ案の概要」を準備してございますので、適宜ご参照いただければと思います。

それでは、1枚めくっていただきまして「目次」でございます。

前回、中間とりまとめの骨子案を紹介させていただいてところですが、事務局の方で本文に応じた構成の修正を行っております。

具体的には、前回の骨子案では、「灯台の活用拡大に向けた提言」を「情報発信」と「地域連携」の2つとし、さらに「今後の検討事項」として見出しをたて

ていましたが、本稿では「灯台の活用拡大に向けた提言」に「その他」を追加し、この中で今後の検討事項を盛り込むような形とし、最後に「まとめ」を入れています。

続きまして、本文1ページ目の「はじめに」をご覧ください。

内容としましては、灯台は船舶が安全航行するための指標であることに加え、明治期に遡る長い歴史、建築物としての高い価値、周囲の豊かな自然環境など、様々な魅力要素があるなか、第4次交通ビジョンに掲げられた「灯台観光振興支援」を推進するため、灯台の付加価値を高め、地域による灯台の活用を広げていくために必要な方策を議論してきたものとして、本懇談会設立における背景と経緯をベースに藤岡座長にアドバイスをいただきながら作成したものとなります。

続けて2ページ、3ページの「灯台の現状と活用事例」でございます。

本項は、第1回懇談会で紹介させていただいた資料をテキスト化したもので、「灯台の活用事例」については、燈光会や地方公共団体等が行っている灯台の公開、無人となった官舎や敷地、廃止された灯台そのものが地方公共団体により活用されている事例、その他として観光協会等による灯台ツアー、灯台を支える地域団体について記述しております。

1枚めくっていただきまして、4ページの「灯台の活用に係る課題」では、これまでの議論を踏まえ、主な課題として浮かび上がってきた「情報発信」と「地域連携」に加え、持続的な取組みに必要となる部分を「その他の課題」として整理しております。

「情報発信」に関する課題としては、灯台イベント情報を調べる場合、現状は複数のホームページを確認しており、一元的に入手できる仕組みがないことや、外国人を含む幅広い層に向けた情報が必要なこと、「地域連携」に関する課題では、灯台周囲の様々な魅力要素と連携できていないこと、また「その他」では、灯台管理に係る課題として、国有財産の使用手続き、財源の問題を記述しております。

続いて5ページからの「灯台の活用拡大に向けた提言」に移ります。

本項は、先程の課題に対して、今後取り組むべき方策を示しており、3項目あるうち、「情報発信」と「地域連携」については、総論と各論の2つのパートに分けた構成としております。

また、各論部分をより具体的にイメージしてもらえよう、関連する方策に「懇談会での議論」として委員の皆様から頂戴したご意見・ご提案を記述しております。

それでは、1つ目の情報発信に係る方策についてです。

「利用者サイドに立った改善に取り組むとともに、地域のシンボルとしての

灯台が持つ様々な魅力を最大限に引き出し、これまで以上に多くの方々に灯台とその地域の魅力を知ってもらうためのコンテンツの充実が必要」として、「情報発信手法」と「情報発信内容」の改善に係る取組みを掲げました。

記載内容としましては、「手法の改善」として、「灯台に関する情報を一元的に発信するポータルサイトの立ち上げ」、「情報の多言語化」、「SNS の活用や地域の観光サイトへのリンクなど入口の多様化」、「メディアへの働きかけ」。

「内容の改善」として、「灯台本体に加え、レンズ、宿舎跡地、さらに地域の歴史的トピック情報」、「地域のお祭り、周辺の観光施設、映画での撮影シーンで活用されている事例紹介などの充実」を掲げております。

6 ページからの地域連携に係る方策については、「地域に根ざした他の観光資源と連携した取組みが不可欠であり、地方公共団体をはじめ、各地域で積極的に地域振興に取り組んでいる様々な関係者との連携を強化していくことが必要」として、4 項目、「1 地域連携の枠組み」、「2 地方公共団体等による灯台の一般公開」、「3 文化財や観光コースとしての活用」、「4 灯台に親しみを持つような新たな活用」を掲げました。

記載内容としましては、「地域連携の枠組み」として、「地方公共団体を中心とした地域関係者による協議会等を組織する」。

「地方公共団体等による灯台の一般公開」として、「地方公共団体による一般公開事業の拡大、灯台用地の活用促進」。

「文化財や観光コースとしての活用」として、「歴史的価値の特に高い灯台の重要文化財等の指定推進」、「灯台へのアクセス改善を図り、ハイキングコースのゴール等ランドマークとしての活用」。

「灯台に親しみを持つような新たな活用」として、「公募によるデザイン灯台化、アートペイント等の促進」、「映画やドラマのロケ地としての活用を促進」、「音楽会、キャンプなど灯台敷地の活用」を掲げております。

9 ページの「その他」では、持続可能な取組みとするため、飲食物等の販売、有料イベント等地域の活性化に寄与するような活用方法を検討し、国有財産の活用について調整のうえ可能なところから取り組むと掲げております。

続いて 10 ページの「まとめ」は本文に応じて要約してありまして、「地域活性化に取り組んでいる様々なプレイヤーが連携することで、地域による灯台の活用が拡大することを期待する」と締めくくっております。

11 ページに本懇談会の出席者名簿、以降は参考資料として、これまでの懇談会で使用してきた資料に加え、今回のアンケート結果の概要を添付することとしています。

事務局からは、以上でございます。

【藤岡座長】 どうもありがとうございました。これまで議論してきたことを非常に詳細にまとめていただいたかと思いますが、委員の皆様からこれについてご意見、ご質問お願いいたします。

【笹本委員】 これまでの議論が盛込まれており、こうしたらいいというものが提言としてまとめられておりますので、銚子市がこれから連携して出来ることなどは、取り入れてできるようにしたいと思います。

インバウンドで来るお客様が、灯台の構内に入るとき、Wi-Fi の環境整備などがあるといいなということで、本市でも、灯台園地内のどこかに Wi-Fi の環境をおけないかと考えていますが、Wi-Fi は微弱の電波ですので、なかなか通りにくいとのことです。

東京オリンピックが 2020 年にありまして、観光で訪れる外国人のお客様が増えておりますので、灯台をそういった国際的な目でも観光として活かしていくということであれば、Wi-Fi 環境の整備などができると、大変良いのかなと思っております。

【藤岡座長】 ありがとうございます。今おっしゃったことは、日本中色々なところで言われる問題で、当然欧米の方々はかなり不満がおります。

不動さん、何かご意見ございますか。

【不動委員】 改めて確認させていただいて、灯台で色々できることがあるなど実感しましたし、もっとないかなと考えていくと、灯台ファンと交流を取っておりますけども、色々意見を聞いていきたいなと思っております。

その中で、灯台で何でも出来そうだと、いいと思うのですが、私、本業が学芸員という立場があるのですが、歴史的な灯台は特に、オリジナル性というのを残していくというのも、すごく重要なことだと思います。

先ほども前提として、歴史的なものでないものは、アートペインティングやラッピングというお話がありました。これは取ろうと思えばすぐ取れるということで、やられるのだと思っておりますし、そういった意味で問題を指摘するという意味ではないのですが、今後考えていく上でやはり古いものというのが、もっとも説得力を持っていくようになると思っております。

例えば野島埼灯台にあった霧笛舎。もうぼろぼろで取り壊されてしまいましたが、あれの周りに囲いを作るとか。丸ノ内のビルというのはそうやって守っていますよね。

危ないから壊しちゃおうではなくて、一つの文化財と捕らえて何か残すことができたなら、またそこにも可能性があったし、十年後、二十年後にすごく人々が

ら愛される存在になったのではないかと。

今まで振り返ると、そうやってもう無くなってしまったものが多々あるので、これを教訓として、今後はすぐ取り壊すということを考えずに、なんとかうまく形で残すっていうことを考えるべきではないかなということをおは考えています。

【藤岡座長】 あの霧笛舎は、大正時代の終わりの鉄筋コンクリートの日本でのやり方をよく現したもののなのです。

例えば、屋根面を斜めにしてコンクリートを打つとか、今はやらないのですが、あの時代では一般的なやり方だったのです。

あと珍しいのが壁式であることで、柱ではなく、壁で支えるという、あの時代としては先進的だったので、実は価値を認められるものではあったのですが、財務省的な発想からすると、不要なものは維持管理費がかかるので、壊さなければいけないということになるのです。

昭和40年代から、灯台吏員官舎がどんどん壊されてしまったのは、正にそのためだったのです。それを防ぐ手はどこにあるのかということ、文化財指定です。つまり台帳からそれで消えたことになります。

確かに他山の石としてこれから課題としてあるのかもしれないですね。ご意見ありがとうございます。

大橋さん何かご意見ございますでしょうか。

【大橋委員】 今の不動さんのご意見とほぼ同じなのですが、文化財的なもの、昔から残っているものというのは、大切にしていかなければいけないものだなと思いました。

海上自衛隊の例ですと、江田島とか呉とか、戦時中若しくは戦前に作られた赤レンガの建物がまだかなり残っています。

これなどは先ほど座長がおっしゃられました予算的なもので、財務からかなり色々な手厳しい指導を受けたのですが、現状のまま残すということで、江田島の幹部候補生学校などは耐震補強をしたり、外見上は全く昔のまま残す措置をしたりしています。

また呉市と江田島市とともにそれを文化財として情報発信をして、観光客を招くというようなことにも活用されていますので、うまく折り合いを付けて活用していければいいのではないかなと思います。

【藤岡座長】 実は旧海軍の建物は、すごく技術的に進んだことをやっています。舞鶴の赤レンガ館、あれ本当は鉄骨なのです。鉄骨をすごく沢山使うのは海軍

の特徴で、戦前の日本は八幡製鉄しかスチールが作れなかったため、建築資材が足りなかったのです。

でも海軍だけは違った。すごく沢山鉄骨が使えるということで、実は呉なんかもすごくそういった価値があるものが残っています。

でもあまりそれは知られていないので、いずれそのような認識ができればいいなと思っております。

寺崎さん、この中間とりまとめについて何かご意見ございますでしょうか。

【寺崎委員】 かなり上手くまとめられていて、さぞかし多くのご苦勞があったのだらうなと思ひながら拝見しておりました。

こういうまとめはすばらしいのですが、我々がこのような計画を作る際に、書くか書かないかは別として、ではこれは誰がやるんだということを落とし込みます。国が主体あるいは主導してやることと、地域が主体あるいは主導してやることを頭の中で、再整理できるといいのかなと思います。

ここに書くか書かないかは別としてですけど。

例えば、プロモーションということに関してですが、国が主導してやるのは全国統一的に灯台のイメージを打ち出し、需要をあおることです。一方で、先ほどから出ているように灯台単体の魅力もあるでしょうけど、周辺景観とあるいは周辺で行われてきた歴史文化的なこともあいまって物語としての灯台があることを打ち出していくのは、地域主導です。

国が主導するのは、灯台を主人公にして一律的にやらざるをえないのですが、地域が主体となってやる場合は、地域全体の魅力の中で灯台が突出している場合もあるし、あるいは他に突出しているものと相乗的な効果になって灯台の魅力がまた出ているものもあるでしょう。地域によって戦略が異なるので、それは地域単位でやっていくという切り分けです。

プロモーションであっても地域の場合はそうやって面的な魅力の中に灯台を位置づけていくということになりますから、それぞれ地域ごとにやって出てくるプロモーションの仕方は違うということでしょう。多分それが縦軸と横軸になっていく。

また整備に関して言うと、例えば地域は、地域の中の駅を中心とした歩くルートの中に灯台を入れ込んでいくところもあれば、どこかの拠点となる駐車場をベースにしてお土産屋さんか何かとセットにしてやっていく場合もあるでしょう。

一方で、全国一律に何か整備するのは予算的に難しいのかもしれませんが、やはり統一感があつた方がよいものについては、そうなってくるのだと思います。

ここで一つふと気になるのは、サインボードです。

地域を歩くときに、そこの地域の全体のアイデンティティを表すような、統一的な看板で、灯台 300m 先右とか、灯台のロゴの前に自分の地域のロゴをつけてみたり、全部茶色で統一してみたりするとか、地域のイメージを出すものになります。

一方で、灯台のイメージを打ち出すために、全国一律の看板を作るという手法もあります。どちらが良いでしょう。

特に外国人旅行者を対象とする場合、どちらの方がインパクトがあるのかと考えていました。

地域単位でやるとしても、地方公共団体主体でやってくださいということでもよいかもしれませんが、こういう風にすればいい事例になりますよというケーススタディを、今回の懇談会にお越しにいただいている自治体だけでなく、例えば文化財保護法を上手く使うことによるやり方を我々は今非常に注目しているのですが、そういった事例を作っていきましょうということがあってもよいと思います。

発展的な面で、ここに文化財保護法の協議会を活用することも検討すると書いてありますが、もう少し強めに書いていただければ面白いなと思いました。散漫になりましたが以上です。

【藤岡座長】 その辺事務局は何かご意見ございますか。

【主任海上交通企画官】 今のご意見を参考にさせていただいて、取り入れられるものがあれば取り入れたいと思います。

【藤岡座長】 この報告書の中に加えるということですか。

【主任海上交通企画官】 座長と相談させていただければと思います。

【藤岡座長】 分かりました。これは全部公表されるものでしょうか。

【主任海上交通企画官】 公表することを前提に作成しています。

【藤岡座長】 そういうことであれば、先ほどの話は、また後でお願いすることになります。座長一任ということで預らせていただくとこになるかと思えます。

今おっしゃったサインボードなどは、地方自治体で対応可能などころはあるでしょうか。

【岩崎観光振興係長】 どうしても予算が必要になることなので、その確保をどうするか検討する必要があると思います。

また、補助メニューがあれば活用してやっていくことは自治体として可能と考えます。

【藤岡座長】 笹本委員いかがでしょうか。

【笹本委員】 犬吠埼灯台は古くからの観光地なので、時代、時代で案内板などを整備していますが、今の時代のニーズにあったサインボードになっているかといった点については、推進する側からするとどうかなと思っています。

本市の場合、比較的新しいものとしてジオパークを大地の公園ということで紹介していて、統一した看板はありますが、古いものもあります。

灯台のインフラツーリズムということで統一的な看板を作ろうということは面白い試みだと思いますが、既に設置してあるものとの調整や予算の確保も必要なので、十分な検討が必要と感じています。

【藤岡座長】 不動委員いかがでしょうか。

【不動委員】 サインボードのアイデアについて、参観灯台はサインボードが無くても迷わずにほぼ行ける場所だと思いますが、それ以外の灯台にはサインボードが必要というかいつも迷ってしまうことが多いので、あると安心して行けると思います。

例えば、恋する灯台プロジェクトでは、共通のデザインを作ってどうぞ好きに使ってくださいと渡しており、それで自治体の人がチラシを作ったりとかしています。恋する灯台としての一体感や、デザイナーに頼む手間が無いのはいいのかなと思いました。

おしゃれな、人々の心をつかむようなデザインを使っても良いですよといった形で提供するのには良いことだと思います。予算が下りた時や前の看板を直すタイミングでそれに直していくのも良いのかなと思いました。

【藤岡座長】 例えばヨーロッパでは、ネット環境が整っていて色々なものがスマートフォンで分かるようになっていきます。

いずれ日本もそうなると思いますが、当面は直にできないのでサインボードみたいなものも意味があるということだと思います。その辺も含めて課題ということで、よろしく願いいたします。

中間とりまとめに対して他にご意見ございますでしょうか。

【岩崎観光振興係長】 先ほど、どこが取り組むかといった役割の話があり、自治体として何ができるかと考えていたところ、6ページの地域連携の枠組みについては、地域の中で地方公共団体が主体となって枠組みを作っていこうといった話だと思います。

志摩市では2基の参観灯台があるので、1基ずつではなく、2基の周辺の住民の方等を巻き込んだ協議会であったり、灯台の活用を考えるようなものが必要ではないかと考えています。

また、地域の中だけでなく地域間の連携も必要と考えていまして、昨年度、銚子市様、御前崎市様、出雲市様と協議会を立ち上げましたが、それをきっかけに、先日、御前崎市様の担当者の方とお話をさせていただいたり、今年は銚子市様のところに行かせていただくということで、我々担当者レベルでも他の自治体の灯台の状況を知って自分たちの活用につなげていけるということは非常に大きなメリットです。

自治体間の連携あるいは灯台を守る会等の市民レベルでの交流といったものも大事にできるような方向性ができるといいなと思いました。

【藤岡座長】 他にご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、他に特にご発言がないようですので、本日いただいたご意見を反映させたいと本有識者懇談会の中間とりまとめとさせていただきたいと思えます。

具体的な修正につきましては、よろしければ座長にご一任いただきたいと思います。いかがでしょうか。

(「よろしくお願いします」との声あり)

ありがとうございます。それでは、私と事務局の間で検討いたしまして、修正を検討させていただきたいと思えます。

引き続き「議事(3) 今後の取組について」に移りたいと思えます。「資料4」について、事務局からご説明をお願いいたします。

【主任海上交通企画官】 海上保安庁では、中間とりまとめを踏まえ、地方公共団体の皆様などと連携し、取組を進めてまいります。最近の取組を数点ご紹介させていただきます。「資料4」をご覧ください。

最初に、城ヶ島灯台特別公開という広報資料を載せております。

こちらは、神奈川県三浦半島にある城ヶ島の魅力向上や、こちら「恋する灯台」にも選ばれており、「恋する灯台のまち」ということで、灯台を訪れる方々を増

やし、海への関心を高めてもらいたいという地元からの要望を受けまして、全国で初めてとなります灯台へのトリックアート風の扉であったり、城ヶ島の地図のデザイン画のラッピングを施しておりまして、今年の5月1日から公開しております。

写真の方は、ページをめくっていただきますとこういうイメージとなっておりますが、公開初日の5月1日には、特別公開をしたということもございまして、627名の方に来場いただいたということ聞いております。

続きまして、安房埼灯台。こちらもち城ヶ島にございまして、デザイン化の話でございます。安房埼灯台は岩場に建っておりまして老朽が著しい部分がありました。

それで海上保安庁では今般建て替えることにしたのですが、その建て替えに併せまして、城ヶ島観光のシンボルとして相応しい灯台となるよう、灯台のデザイン案を市民の方から公募いたしました。

その中で6月10日、107点の応募作品がございまして、「とんがり屋根の灯台」という題目がつけられておりますが、こちらのデザインを基に今後設計を行いまして、今年度中に竣工することを計画しております。

続きまして、「灯台カード周知宣伝キャンペーン結果について」です。

昨年の灯台150周年記念の一環として実施している灯台カードデジタルの特別キャンペーンとして、明治期灯台3基を巡った方に「期間限定灯台カード」をプレゼントし、更に明治期灯台10基を巡った方には「あなたの写真で作るオリジナル灯台カード」をプレゼントしております。

ちなみに150周年のデジタルカード150基のうち、明治期灯台は31基でございます。

「期間限定灯台カード」の応募者の方は74名いらっしゃいまして、10基を巡って写真を送っていただいた方は16名いらっしゃいました。

「あなたの写真で作るオリジナル灯台カード」につきましては、海上保安庁のホームページでまもなく公開することとしています。

続きまして、「世界航路標識の日について」でございます。

こちらは、昨年5月、国際航路標識協会の総会におきまして、航路標識の重要性や公的役割の認知度を、世界中の多くの方々に普及させることを目的といたしまして、同協会の設立日である7月1日を「世界航路標識の日」として承認しており、今年の7月1日が初年度となります。

そこで海上保安庁では、初めて迎える7月1日の記念日を広く国民の皆様にご存知いただくため、記念イベントといたしまして2つ計画しております。

1つは、世界航路標識の日創設記念キャンペーンと申しまして、先ほども少し触れました、「灯台カードデジタル」の中から、一定条件の灯台5箇所を巡って

いただきまして、その灯台をダウンロードしていただいた方に世界航路標識の日オリジナルのポストカードをプレゼントすることを計画しております。

2 つ目は、「世界の灯台写真パネル展」といたしまして、日本を含む世界各国の著名な灯台をこの庁舎の 1 階で 2 週間程度展示することといたしております。

【藤岡座長】 これはご報告ということでよろしいですか。

個人的にはですね、この灯台のデザインを応募するというものですが、素人さんだと技術的な問題であったり、維持が難しいとか、コストがかかるとか、色々な問題があり得るので、例えば建築家に対してやってもらった方が安全なような気がするのですが。

それが結果として地元ですごいカッコいいというものになる可能性が高いと思うのですね。

【主任海上交通企画官】 この建て替えに併せたデザイン化につきましては、先ほど不動委員からお話がありました、古いものといいますが、そのものを残していくということには反することかもしれませんが、やはり地域のシンボルというところで、暖かく見守っていただければと思います。

【藤岡座長】 ありがとうございます。引き続き銚子市の取組について、笹本委員ご発表をお願いいたします。

【笹本委員】 先ほど志摩市の岩崎さんからもお話がございましたけども、今年、灯台ワールドサミットを志摩市さんから引き継ぎました。

開催日程が 11 月 9 日、10 日ということで、まだ全て決まっているということではありませんが、6 月 8 日に灯台フォーラムを行ったということもあり、関係者が沢山お越しになるということ踏まえまして、発表できるものをペーパーにして出しましょうという趣旨で作らせていただきました。

本市では 4 月 26 日に実行委員会を立ち上げました。構成メンバーは観光協会あるいは商工会議所、漁協、農協さんといったところに参画いただき、この灯台ワールドサミットを成功裏に導こうということで立ち上げたものでございます。

銚子市長が実行委員会の会長となり、運営委員長に第 2 回懇談会に参加いただいた犬吠埼ブランドン会の仲田代表幹事をお願いすることになり、詳細について詰めているところでございます。

内容としては、記念式典を行い、サミットの宣言などをまとめていきたいと思っております。

今回、私もこの有識者懇談会に参加させていただき、勉強いたしました。灯

台を歴史的かつ文化的にどうやって価値を高め、それを観光に活用していくかということをご自治体と議論し、そして切磋琢磨していくことを主題とするのかなということで、開催趣旨に記載させていただいているところでございます。

その他に、次世代を担う青少年に対して、灯台の価値や魅力を知ってもらう取組みをしようということで、今、不動さんにご相談させていただいています。

本市には、灯台の役割や価値を学習しようという近隣の高神小学校という所がございまして、学校では灯台の見学などを行っているのですが、それを通して何ができるのか、あるいは調査研究をして発表するのか、壁新聞にするのか、絵にするのか詳細は決まっておきませんが、そういったことを現在検討しているところでございます。

いずれにいたしましても、場所は犬吠埼灯台周辺を核にして、園地があったり民間のお土産屋さんがあったり、近くにホテルもございまして、サミット会場はホテルになると想定しております。

また、銚子市はオリンピックのキャンプ招致活動などでの交流を通じまして台湾とのホストタウンの登録を受けておりまして、灯台での交流なども出来たらなど、以前オファーがございまして、検討させていただいております。

台湾の桃園市には白沙岬灯台という灯台がございまして、参観灯台ではないのですが、犬吠埼灯台と同じ二重レンガ構造であるということ、それからブランドンさんが設計したものに大変似ており、日本人の技師が設計されたということです。

今年は、場合によっては向こうからお越しになってお話をさせていただくというようなイベントを考えているところでございます。

他には、例えばブースには、銚子の特産である灯台印キャベツがございまして、農協さんなどが何か仕掛けを見せてくれるかという盛り上がりも見せているところでございます。

海上保安庁さんにもご後援をいただく予定で、燈光会さん、日本航路標識協会さんにも、ご後援をいただきまして、各自自治体の皆さまと手を携えてこのサミットを成功させたいと思います。

第3回は御前崎を予定しておりますので、御前崎さんに無事引き継ぎたいと考えております。

確定したことが無くて恐縮ですが、第2回の実行委員会を来月中旬に行う予定で、その内容の決定をもちまして、PRをしていきたいと考えております。

本日はこの2枚のペーパーでお知らせをさせていただくということで、ご容赦いただきたいと思います。

【藤岡座長】 どうもありがとうございます。私から伺ってよろしいですか。この台湾の灯台は、いつごろ出来たものでしょうか。

【笹本委員】 明治の終わり頃だったと思います。設計は日本人の技師だったと伺っております。

【藤岡座長】 ありがとうございます。
今日の会議全体につきまして何かコメント等ございましたらどうぞ。

【不動委員】 私から報告という形になるのですが、先ほどもお話いただいたとおりに、6月8日土曜日に灯台フォーラムを開催いたしました。

第16回ということで、毎年この時期に続けている灯台ファンの集いであり、勉強会です。

今年は、元灯台守の鈴木照秋さんに基調講演をしていただき、その後、灯台での地域活性化を目指す現在の状況を、灯台ファンとしても把握しておきたいという声が大きかったものですから、海上保安庁交通部の原さんにお越しいたきて、この懇談会の現状をご説明いただきました。

また、その後、燈光会さんですとか日本航路標識協会さん、志摩市さん、銚子からは犬吠埼ブラントン会、御前崎灯台を守る会さんなど、ご登壇いただきまして、海上保安庁さんとしても、地域としても、尾道海上保安部さんでやっていた取り組みとかも発表があつて、今、灯台がどういう状況にあつて、これからどんなことが出来るかというのを、灯台ファンとしても情報を共有し、もっと灯台を愛されるようにしたいねと、まとめてきたところです。

大体103名の来場者がありました。

そこで実は私たちもアンケートを取りまして、「具体的にどんな風に灯台を活用していくといいと思いますか」、「こういう活用をした場合にあなたはそれに参加したいと思いますか」という内容でアンケートを取りました。今後、そういった内容も是非共有していければと思います。

このアンケートについては日本航路標識協会さんに御協力していただき、とりまとめをしているところです。

以上、報告でした。

【藤岡座長】 どうもありがとうございます。他にございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の内容を終了いたしまして、進行を事務局にお返しします。

【主任海上交通企画官】 藤岡座長どうもありがとうございました。

本日ご議論をいただいた「中間とりまとめ」につきましては、藤岡座長と調整のうえ修正し、「資料3 中間とりまとめ(概要)」とともに公表することを予定しております。

公表後は管区本部に送付するとともに、自治体にも送付することを検討しています。

また、本日の議事概要につきましては、後日、事務局より各委員等の皆様へ確認をとらせていただきますのでよろしく願いいたします。

それでは、藤岡座長からコメントがありましたらお願いいたします。

【藤岡座長】 それでは、お礼とある意味私の意見を言わしていただきたいと思えます。

まずは、このような場を設けていただいた海上保安庁の方々に、本当にお礼を申し上げます。

前任者の交通部長の八木さんをはじめ、色々ご配慮いただきましてこのような場を持つことができました。

それから、事務局の長谷川さんをはじめ、大変お世話になりました。短期間によくこれだけのことをまとめていただいたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

それから委員の方々も本当に貴重なご意見をいただきまして、私自身、大変勉強することができたなど、大変うれしく思っております。どうもありがとうございました。

ただ、おかげさまでようやくこれでスタートラインに立ったというのも実感でありまして、これからどうするかということがやはり大きな課題かと思えます。

おそらく短期的には重要文化財指定とか、そういうことで、一時的に注目が集まるということは、まず確実にありますし、そういう時を狙ってマスコミ等に色々取り上げていただいて、灯台の価値を再認識していただくことが出来るかと思うのですが、その後どうするかということもとても大事なので、その辺は出来るところから何とか手を付けていければいいなとは思っております。

そういう際に、私の方がもしかして海上保安庁あるいは関連の団体の方々に何かお願いすることがあろうかと思えますので、その節はよろしく願いいたします。

本当に皆さんありがとうございました。大変お世話になりました。

【主任海上交通企画官】 藤岡座長ありがとうございました。

最後に、閉会に当たりまして、高原交通部長よりご挨拶を申し上げます。
高原部長、よろしく願いいたします。

【交通部長】 海上保安庁交通部長の高原でございます。

委員の皆様におかれましては、活発なご議論をいただき感謝申し上げます。

私ども海上保安庁はご提示いただいた方向性を踏まえ、地域による灯台の活用をより広げていくための取り組みをしっかりと進めてまいりたいと思います。

最後に、改めて熱心なご議論をいただきました委員の皆様にご心より感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援、ご協力をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

誠に有難うございました。

【主任海上交通企画官】 高原部長、ありがとうございました。

これをもちまして、第3回「地域活性化に資する灯台活用に関する有識者懇談会」を終了いたします。

本日はありがとうございました。